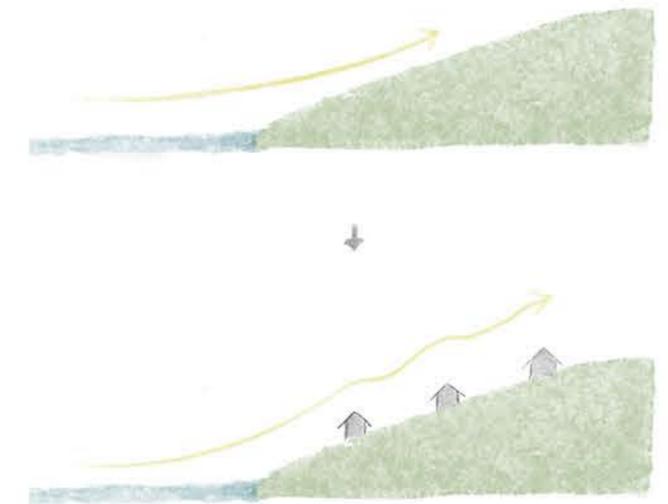


農地を脅かす塩害
海に近い農地では海風や潮風の影響を受け、塩害が発生する。土中に塩分が増えると、植物の根や茎に蓄えられている水分土中に流出され再生困難とされる荒廃農地が増えてきている。



計画
建築をS字を描くように配置する。塩害の被害を防ぐ環境装置としての集合住宅であり、自然を育むものになる。



柳なる住処

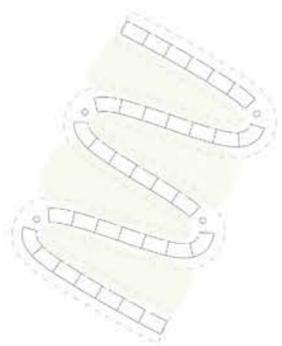
廃農地とは現に耕作されておらず、通常の農作業では作物の栽培が不可能な農地のことを指す。集合住宅に生ゴミを荒廃農地へ戻し、環境修復に資する有機物循環システムを導入する。住民の生活から生産される生ごみから肥料を作り土壌に戻すことで荒廃農地の復元を目指す。

耐える建材
塩害は農地だけではなく、金属を腐食させコンクリートを劣化させるため、海の近くに建築物を建造する際にも注意が必要である。この環境下に耐え抜くため私たちは「焼杉」を選んだ。焼杉とは杉の板を焼いた黒い外壁材のことである。耐久性が高く、炭化作用による防虫・防腐効果もあり50年～100という耐久年数を持つ。



塩害に適する植生
荒廃農地が緩和された時には様々な緑の復元が可能である。荒廃農地復元の事例としてガマズ、ナツハゼの生産やニンジン栽培などがある。海に近い荒廃農地では塩害に強い塩生植物の植生が可能である。クロマツやヤマモモ、カシワなどがある。この地に強い植生が育つことで敷地に緑を再生する。

構成
一つの屋根の下に33戸の住戸がある。○の部分が生ごみ収集の共用部分である。ここに住む住民たちで荒廃した農地を復元する試みをする。自給自足、循環した生活の未来を目指す。



荒廃農地に投ずる有機性ゴミ
私たちは人間として、食事の準備、仕事、勉強などの日常生活でこのゴミを出すことができる。一般的に生ごみと呼ばれるものは土壌にとっては豊富な栄養となる。ご飯や野菜、果物の切れ端などを住民から集め敷地の肥料とする。

